

開講科目名／Course	病理学総論	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	定金 香里	
担当教員名／Instructor	定金 香里	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	病理学は、病気の実態を明らかにするために、発症原因やそのしくみ、病状の経過、病気がたどる最終的な結末といった一連の過程を調べる学問である。病理学総論では、病気の原因、それに対するからだの反応、病状の経過について、各臓器に共通する一般的な原理や規則を学ぶ。病気の診断には、まず、どのようなカテゴリーの病気であるかを大まかに判断することが非常に大切である。病理学総論では、講義の他に十分、時間をかけて病気の概念やしくみを理解し、次に学ぶ病理学各論、さらには看護を行う上で必要な症状の理解や診断・ケアの修得につなげていくことを目的とする。	
到達目標	1. その病気がどのようなカテゴリーに属するのか判断できる。 2. 身体に生じる病的変化の原因を説明できる。 3. 病的変化に対するからだの反応と経過を総論的に説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 病理学で学ぶこと 02. 細胞・組織の損傷と修復、炎症 03. 免疫、移植と再生医療 04. 循環障害（1）：浮腫、充血、うっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞 05. 循環障害（2）：側副循環障害、高血圧症、播種性血管内凝固症候群、ショックと臓器不全 06. 代謝障害（1）：脂質代謝障害、タンパク質代謝障害 07. 代謝障害（2）：糖質代謝異常、そのほかの代謝障害 08. 先天異常と遺伝性疾患 09. 腫瘍 10. 生活習慣と環境因子による生体の障害	
その他の授業の工夫	講義後に復習できるよう、教員が演習問題を作成する。	
時間外学修	事前学修：教科書の講義箇所を事前に読み、おおよその内容を理解しておく（5h）。 事後学修：再度、教科書を読み込み、配布プリントや講義ノートを用いて、重要な知識を整理する。その後、演習問題を解く（15h）。	
評価方法と評価割合	本講義の成績は筆記試験（100％）により評価する。ただし、評価の要件として、全講義の2/3以上の出席が必要である。この要件を満たさない場合、評価の対象外とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]（医学書院）	
参考書	カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		